



俳句のまち  
あらかわ



参加費無料  
全席自由席  
事前申込制

# 子規 漱石 句あわせ in 日暮里

子規・漱石2人の俳句の魅力を語りあう

＼ 同日開催 /

令和7年度  
あらかわ俳句アワード  
発表

前年度の俳句事業の最優秀作品の中から、  
年間大賞が決まります。

記念グッズ  
プレゼント

開催日 令和8年2月7日(土) 会場 日暮里サニーホール  
アートホテル日暮里ラングウッド4F

時間 13:30 ~ 15:30 受付 13:00 ~ 住所 荒川区東日暮里5-50-5  
第1部と第2部の間に10分間の休憩を設けます。  
JR・京成「日暮里」駅南口 徒歩約1分  
日暮里舎人ライナー「日暮里」徒歩約3分

内容 第1部 子規・漱石句あわせ  
子規チーム《東大俳句会》と漱石チーム  
《早稲田大学俳句研究会》の両チームが、  
それぞれ子規・漱石の俳句を鑑賞し、  
ディベートにて熱戦を繰り広げ、俳句の  
魅力を伝えます。

出演者

東大俳句会  
早稲田大学俳句研究会

審査員  
鼎談

刘馬 康子氏  
(現代俳句協会副会長・産経新聞俳句選者)

第2部 俳人による鼎談  
子規・漱石をテーマに3名の俳人が、ゆかりの地・  
日暮里で俳句の魅力を語り合います。

岸本 尚毅氏  
( (公社) 俳人協会理事・「天為」「秀」同人)

黒岩 徳将氏  
(現代俳句協会青年部長・「いっき組」所属・「街」同人)

申込 令和8年2月3日(火)まで  
電話・ファクス・来所・はがき、メールまたは荒川区ホームページ(電子申請)で  
イベント名、住所、氏名(参加者全員分)、電話番号をお知らせください。

車いすをご利用の方は、お申込の際に事前にお知らせください。  
申込締切を延長しました。

電話 03-3802-3795 ファクス 03-3802-4769 荒川区ホームページ

来所 荒川区役所3階 窓口文化交流推進課 はがき 〒116-8501 荒川区 荒川 2-2-3

電話・来所の受付時間は平日8:30から17:15まで

メール bunka@city.arakawa.lg.jp

荒川区文化交流推進課文化振興係宛

[https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a015/event/shiki\\_soseki.html](https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a015/event/shiki_soseki.html)

荒川区ホームページ  
QRコード



荒川区 句あわせ

検索

主催 : 荒川区 後援 : 松山市 企画協力 : 黒岩徳将氏



## 日暮里と正岡子規 夏目漱石のゆかり



正岡子規は、明治27年（当時26歳）に上根岸町82番地（新聞記者・評論家の陸羯南宅の東隣、現在の台東区根岸2丁目「**子規庵**」）に居を移しました。そして、近隣の日暮里や三河島といった荒川のまちを散策し、そこで目にした三河島菜などの俳句を詠みました。子規と親交の深かった夏目漱石もたびたび子規庵を訪れ、句会に参加しました。

荒川区・芋坂の**羽二重団子**は、子規や漱石に愛され、彼らの作品にもしばしば登場します。右の句は、団子と月を詠んだ子規の句です。

また、漱石の小説「吾輩は猫である」の中にも羽二重団子が登場します。

子規が通った「共立学校」は、後の開成高校（荒川区西日暮里）であり、その縁もあり、開成高校の俳句部は、毎夏、松山市で開催される俳句甲子園の優勝常連校です。また、子規が高浜虚子に後継者となることを断られた茶屋でのエピソードは開成高校がある道灌山を舞台としており「道灌山事件」と呼ばれています。

このように、正岡子規、夏目漱石と荒川区はとても縁があるのです。

芋坂も団子も月のゆかりかな  
正岡子規



## 俳句のまちあらかわ

荒川区は古くから俳句にゆかりのあるまちで、子規の他にも多くの俳人たちが俳句を詠みました。日暮里は江戸時代、「日ぐらしの里」と呼ばれた風光明媚な花見や虫聴きの名所であり、小林一茶も本行寺をたびたび訪れ、句を詠みました。本行寺には、一茶の「陽炎や道灌どのの物見塚」、また、種田山頭火の「ほつと月がある東京に来てゐる」といった句碑があります。

一方、日光街道の千住宿（荒川区南千住）は、松尾芭蕉「おくのほそ道」矢立初めの地です。「行く春や鳥啼き魚の目は涙」・・・

この句を矢立初めの句として芭蕉は旅立ちました。

このように、俳句ゆかりの地である荒川区は、平成27年3月に「俳句のまちあらかわ」を宣言し、投句からイベントまで様々な俳句文化振興の事業を行っています。



## 正岡子規 生誕の地「俳都松山」

愛媛県松山市は、正岡子規や高浜虚子、石田波郷など多くの俳人を輩出し、毎年、高校生による俳句の全国大会「俳句甲子園」を開催するなど、「**俳都**」として知られています。平成26年8月には、俳句を楽しみ尽くす好奇心をエネルギーとした子規の革新精神を受け継ぎ、松山から俳句の風を絶やさず起こし続けることを宣言した「**俳都松山宣言**」を発表しました。

また、令和8年夏頃の完成を目指し、夏目漱石と正岡子規が共に暮らした唯一の場所である愚陀佛庵の再建を進めています。当時の姿や佇まいをできるだけ再現し、漱石と子規が俳句づくりに励んだ庵では句会や茶会が楽しめ、中庭は二人にゆかりがある草花や四季折々の木々を植える予定で、当時の雰囲気を感じられるようにします。

皆さんもぜひ、文学のまち「俳都松山」へお越しください。



俳句甲子園全国大会(1日目)の様子



俳句甲子園全国大会(2日目)の様子



## あらかわ俳句アワード

前年度に開催した荒川区主催の俳句事業の最優秀句の中から年間大賞を選定し、「あらかわ俳句アワード」として決定します。

エントリー対象

あらかわ俳壇（第33回から第36回）、さくら投句会、荒川区文化祭、奥の細道矢立初めの地子ども俳句相撲大会、俳句のまちあらかわフォト俳句コンテスト選者

対馬康子氏（現代俳句協会副会長）、堀田季何氏（現代俳句協会常務理事）

佐々木忠利氏（荒川区俳句連盟会長）、佐藤郁良氏（俳人協会評議員）